

第20回火山噴火予知連絡会議事録

日 時：昭和55年10月28日 10時～13時40分

場 所：気象庁第1会議室

出席者：永田，横山，高木，下鶴，青木，久保寺，加茂，太田，北村（科技厅），梶崎，飯田（文部省），
小野，春山，土出（海上保安庁），高橋，末広，渡辺，田（気象研），相原（地磁気観），神沼
（幹事）

臨時委員：荒牧（震研），小坂（東工大）

オブザーバー：中川（国土庁），高橋（文部省），熊谷（防災センター），三宅，久本，金沢，
泉（気象庁）

庶 務：清水，吉留，斉藤，小宮

〔議事に先だち永田会長から次の紹介があった。 委員異動：国土庁震災対策課長城野好樹氏から梶崎泰
道氏，文部省学術課長七田基弘氏から十文字孝夫氏。〕

1. 第19回連絡会議事録（案）は異議なく承認された。

2. 最近の火山活動

2. 1 御 岳 山

青木委員：火山性地震ひん度推移，濁河温泉温度変化等について

清水（気象庁）：地震発生状況，火口状況

小坂臨時委員：火山ガス成分等について

総 合 検 討

青木委員：火口での噴出はまだ強いが全体的には沈静化した。しかし，来年の登山問題も
あり，観測に空白を生ずるのは好ましくない。

小坂臨時委員：活動レベルは下がっているが，水素が出ておりパイプは通じている。

永田会長：地震は減少しているが，手放しで喜べる状態ではない。冬期の観測体制はどう
するか。

末広委員：気象庁までテレメータしているし，電源も問題ない。

渡辺委員：気象庁は引きつづき地震観測を実施し，経過を見守りたい。

御岳山の火山活動についての統一見解

「御岳山は昨年10月28日噴火したが，その後噴火は発生していない。その後の監視観測の結果に
よれば，火山性地震活動は低調化の傾向にある。噴気孔の一部には引き続き高温域が存在するが，
火山ガス分析の結果も火山活動の衰退を示している。

これらのことから火山活動は本年5月の時点より，さらに沈静したものと考えられる。しかし，

火山活動は完全に停止したとはいえないので、引き続いて冬期間も地震活動の観測は、気象庁において続行する。」

2. 2 桜 島

加茂委員 : 地震の発生状況, 震源分布等について

(桜島北東海域の地震は散発したもので, 現状では噴火等異常現象に直接関係したものとは考えられない。)

吉留(気象庁) : 活動経過

相原委員代理 : 全磁力測量結果

2. 3 阿 蘇 山

久保寺委員 : 活動経過

吉留(気象庁) : 活動経過

2. 4 有 珠 山

横山委員 : 地震発生状況, 辺長変化, 隆起状況等について

(その後の観測によれば, 完全終息までは年数がかかりそうである。)

吉留(気象庁) : 地震回数推移

2. 5 硫 黄 島

高橋委員 : 火山活動の近況(レビュー説明)

永田会長 : 国土庁と科技庁で取扱いを調整のうえ, 次回で検討

2. 6 口永良部島

加茂委員 : 9月28日噴火の状況とその後の観測結果

小坂臨時委員 : 火山ガス成分等について

清水(気象庁) : 地震回数推移並びに過去の活動状況

2. 7 草津白根山

相原委員代理 : 全磁力変化(Ⅳ)

[昼 休 12:15 — 12:50]

2. 8 浅 間 山

吉留(気象庁) : 地震回数推移

2. 9 焼 岳

青木委員 : 精密水準測量による傾斜観測

小坂臨時委員 : 火山ガス成分等について

2.10 三 宅 島

下鶴委員 : 集中観測結果について

2.11 支 笏 湖

小野委員 : ユニブームによる音波探査

2.12 海底火山

土出委員代理 : 南硫黄島周辺海底火山の最近の活動

2.13 その他

小野委員 : 地質図(横須賀)について

3. 連絡会庶務報告

4. 協議事項

1) 次回連絡会開催期日

昭和56年2月10日前後を予定

2) その他

スライド撮影(口永良部島噴火前後の状況) …… 加茂委員

[14:00 ~ 14:30 記者会見 気象庁記者室]